

今年のコシヒカリ BL 種子は 「休眠が深い」ので水温に注意！

休眠が深い場合は、浸種水温は12°C以上で積算水温は120°Cが目安

「令和7年産のコシヒカリ BL 種子の休眠は、深い」と推察されます。
発芽ぞろいを良くするため、以下の点に注意して下さい。

- コシヒカリ BL は、浸種水温を12°Cとし、浸種の積算水温を通常年より高い120°Cを目安に浸種します（十分に吸水した種粃は粃殻が透きとおったアメ色になる）。
- 種子消毒時や浸種初期に10°C未満の低水温になると、発芽ぞろいが悪くなります。発芽ぞろいを良くするため、12°C以上の水温にしましょう。
- 他の品種（特に新潟135号とゆきみらい）も同様な傾向と思われるので、同じ対応をお願いします（次ページ参照）。
- 酸素不足にならないよう十分な水量を確保し、水の更新を適切に行いましょう。

「ばか苗病」の発生防止 — 温湯消毒では微生物農薬を併用する

- 近年、ばか苗病の発生が多くなっています。
- ばか苗病は発病してしまうと薬剤で防除する方法がないので、「発病させない」ことが重要です。そのため、適確な種子消毒を行う必要があります。
- 温湯消毒だけでは、化学合成農薬による種子消毒に比べて防除効果が劣ります。必ず、微生物農薬と組み合わせた「体系処理」を行いましょう。

水稻うるち品種

水稻もち品種

「新潟135号」 「ゆきみらい」

低水温で浸漬・浸種は厳禁!!

「新潟135号」は、暑さに強く、良食味な水稻極早生品種で、令和8年度から一般栽培が始まります。早期田植えで早期出荷が期待できますが、低水温で浸種すると発芽不良や発根不良になることが確認されました。

また、令和5年と令和6年に発芽不良事案が多数発生した「ゆきみらい」についても、「新潟135号」同様、育苗する際は、下記の事項を厳守して健苗を育成してください。

「新潟135号」「ゆきみらい」を育苗する方は、下記の2つの事項を必ず厳守してください。

1. 低濃度浸漬（200倍・24時間）では、浸漬水温は **12~15℃**を確保する

2. 浸種水温は **12~15℃**を確保する

【対応策の例】

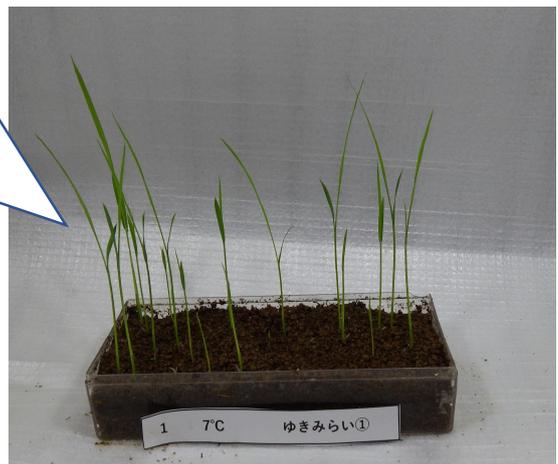
- 浸漬及び浸種を行う時は、催芽機を活用するなど、水温が低下しないよう注意する
- 作業場所は水温が低下しない場所を確保する
- 無加温で出芽させる場合は、出芽期の低温に注意する

《「ゆきみらい」での発芽試験状況》

【浸漬・浸種水温が12℃の場合】



【浸漬・浸種水温が7℃の場合】



低水温で
浸漬・浸種
すると、
発芽不良に
なります!!